

ドインプラントの利点・欠点、それぞれのメーカーのドリルの特性を理解し使い分ける必要性を解説いただき、もし適正ポジションに埋入できなければ撤退する勇気も必要であるのと、代わりに次に有利になる様にしておくよう心掛ける事が重要である。

患者の状態を歯科医師・衛生士・技工士がどの様に把握し、共有していくのか、デジタルの情報をやり取りするだけでは伝わらない事を、寺本デンタルクリニックで実践されている方法を詳しく解説頂いた。



## 令和4年度 第1回 定例研修会

# 臨床家による臨床のための臨床研究とは ー臨床疫学のはじめー

日時：令和4年4月24日(日)  
場所：フクラシア東京ステーション  
講師：河相 安彦教授



藤田 陽一(神奈川県)

令和4年4月24日、日本インプラント臨床研究会2022年度第1回定例研修会が、東京駅近くにあるフクラシア東京ステーション会議室で行われました。

まだまだコロナの影響が強い昨今、現地参集18名オンライン参加79名と多数の会員に参加していただいた次第です。田中 譲治会長の開会あいさつに始まり、当会員である岩本 麻也先生「口腔内スキャナーを用いたインプラント補綴について」、および昨年クイッテッセンス出版から出た書籍ーインプラントのヒヤリハットあるあるーについての水口 稔之先生の会員発表でスタートしました。

次は「インプラント補綴」というお題のもと、3名の将来有望な臨床歯科医師による発表が続きます。トップバッターは医療法人温歯会勤務の安倍 稔隆先生「X-guideを用いた補綴主導のインプラント治療」X-guideとはインプラント埋入時における動的ナビ



ゲーションのことで、近年この分野の急速な進歩に伴い、X-guideの使用感に大幅な向上がもたらされたとのことです。10年程前に、まだ疑いの目で見られつつ出てきた、口腔内スキャナーのその後の勢いに相通じるところを感じ取りました。もしかしたら10年後のインプラントオペはこのやり方がスタンダードになるかもしれません。同じく次は、長野県諏訪市開業 池田 岳史先生「咬合再構成治療における顎関節に対する考察」咬合崩壊を起こした口腔内においてインプラント治療はたいへん予知性の高い補綴方法といえるの

## 第1回定例研修会

ではないでしょうか。ただ設定した顎位に問題が残ると咬合採得が難しくなること多く、しいては顎関節に大きなストレスがかかり、顎関節の変形や顎頭位が変位してしまうことがあることについて等、発表していただきました。これも臨床家にとってたいへんためになる内容です。最後は神奈川県開業の橋村 吾郎先生「ボーンアンカーブリッジを成功に導くため」というお話。全顎におよぶインプラント治療を、自らご苦労なされた症例も含めて発表していただきました。

そして昼食を挟んで午後からは、日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座 河相 安彦教授による「臨床家による臨床のための臨床研究とはー臨床疫学のはじめー」についての講義です。

そもそも臨床研究とは、無作為割付臨床試験やシステマティックレビューなどをはじめとした高いエビデンスレベルから症例報告も含む研究手法である。という内容を、大学病院で研究をしていない我々にも極めてわかりやすく話していただきました。日々の臨床に精一杯の自分にとっても、科学する心が必要な



事を再確認させてもらいました。また自分自身も卒業まもなく母校の歯科補綴学教室で、少しだけ研究のお手伝いをしていた経験があるので、なにか懐かしい趣のあるお話でした。

その後は、会員の若井 広明先生「インプラント補綴での検討すべき要点について」田中 譲治会長の「口腔内スキャナー時代の到来」と発表は続き、研修委員会委員長の水口 稔之先生の閉会挨拶で終了となりました。

